

HAND IN HAND

はんと いん はんど

お正月はやりなおしのきく時

あけましておめでとうございます。

☒ この冬は暖かくてしんどやすすね、昨年のお正月はアレルギー性鼻炎に悩んでいましたが、今年は厄もひかず、鼻炎もうそのようにならなくてええぞあります、みなさまはいかがお過ごしですか。

☒ 年末にいくつか「お正月をどう過ごせばいいかしら」という電話を受けました。一人ぐらしの人や、夫と別れ話が持ちあがっている人は、晴れのお正月も気が重い、旅に出るにもお金がないということのようでした。私は毎年、人も車も少なくなり静かど空気のきれいになる東京で過ごします。電話もかかてこないし、お正月は天国です。離婚して以来、魚箱も何もないシンプルライフで、原稿書きのルマだけありますが、それでものんびりして、やっぱりお正月はいい。

☒ 明治神宮のすぐ近くに住んでいますが、そこは避けて、隣の東郷神社へおまいりします。除夜の鐘をまき終り、しんと冷えさ中を神社へ向うと、大きなかがり火が焚き、静かな境内で今年もよくと祈るのです。そしてお神酒をいただく。今年もいい年になりそうな予感がします。紫天家なんぞしうね。お正月はやりなおしができる時のように楽しいのです。

☒ やり直しができるというのは素晴らしいことだと思います。人生は一度きりですが、いつからでも何度でもやり直しができるのです。そう信じて、今現在の与えられたものを、それが悲しみであって、苦しみのあっても、じっくり味わって生きたい、それが人生のような気がします。

1983年1月1日、まじか。

逐次刊行物

13.2.14

22

中高年の離婚

昭和56年の離婚件数15万4千件のうち、40歳以上の妻は22%を占めていました。昨年度の統計が発表されれば、さらにうわまわった数字がでてくるでしょう。年々増えている中高年の離婚に今回はスポットをあててみました。

去年の12月はじめ、オフィスにこんな電話がありました。

「父と母は、ずっと仲が悪くて、ついこの間、別居をしました。母は、別れたが、ているのに、父は別れることに反対です。母は、今、姉のところに住んでいて、私達があいに行かないと、冷たい」といって怒ります。そう言われるのがいやで、ひんぱんに母のところに行くのですが、父のぐちばかり聞かされます。母に「それは悪い夫でしょうが、私たちにどうして、こんな良い父なので、私は父が好きでした。でも、このじょうは母からまかされるぐちで、だんだん

父のことが憎らしくなってきました。母は、60才です。元氣だし、仕立て物をして、ある程度のお金は、とっています。父は、70才をこりくらしています。こういう時、子供はどうしたいのかわからない。娘だといわれるのはいやだし、ぐちをまかされるのとつらいし、父のことと心配だし、考えこまうのです。」

女子供が高校生くらいになった40代から夫婦二人だけの生活になる。50代、60代の別居と離婚がふえています。ニコニコ離婚講座受講者の平均年齢も40歳。ほとんど、いんぱんどの会員にも高齢者がふえています。

そのなかのお二人が、朝日新聞の「こころ」のページ(昨年12月7日付夕刊)の中高年の離婚で紹介されました。お二人とも60代ですが元氣で一本筋の通ったというか、気骨のある生き方とされています。80歳近くで離婚した「せと刀」(講談社文庫)の中村きい子さんに負けないほどの強い女で、思わず拍手を

40年後の別居

福岡県博多区在住、...さん・63歳

「二年前の6月4日のことだった。勤めが終ったこと、ますます家に帰る気がしない。このころ、勤めが戻ると、毎晩のように夫のぐちをまかされ続け、夜と夜に寝ていなくなった。それと、グラグラと時間をつぶして家に戻ったのだ。ところが家に入らうとする時、夫がけいこをこして玄関にとび出してきた。」

二度とおまえのかおなを見たくない。出て行け。ふんてえあれば、橋の下にだってねられる。おまえには、それか似合っている」と、夫はすごいけんまく。「おまえさえいなければ、おれはひとりぐぐすりぬむれるし、長生まがでさるんだ。」

夫は私のからだを無理に押し出して玄関の鍵をガチャンとかけた。すばやく裏にとまわって鍵をかけたらしく、私は家の中に入ることができなくなりました。」

先月お休みした、
はんど・いん・はんど
今日は、合併号です。

ようとは思っていなかった。

その夜私は10時頃まであこもなく歩いていたらつが。結局、一泊二十五百円の簡易旅館の門をくぐった。財布には五千円がたまたまあった。

翌日、そこがう勤めにぶかり、昼休みを利用して、近くの不動産屋にかけこみ、すぐにでも入られるアパートをみつけてもらった。タクシーで家に戻り、ふとん、鍋、二、三枚の着ぐるみを手早くまとめて、そのまま新しいアパートへ引越した。

こうして私は、40年の結婚生活に終止符を打って、別居にふみきったのである。

これは、福岡在住の工井さんの手記がりの抜粋である。彼女は、現在63才。生計は、清掃会社に勤務してたてている。

給料は月十万円余。風呂・トイレなし。四畳半一間のアパート住まいだ。それと国道ごいの車の多いアパートなのに毎晩ぐっすりよくねむれるし、食欲もある。思いきって別居して本当によかったという。

人が見れば、何ととび出て苦勞しな

はじめ、両面印刷を試みました。どうぞ裏もお読み下さい。

くそいいのにと思うかとしれない。子供たちすら、そう言う。

「だまってお父さんに従ってれば波風もたたないのに」と。しかし彼女が最も耐えられなかった点は、亭主のいいなりになるふとなし、女であるべきだ」という夫の考え方だったのだ。

夫とくらした40年間の結婚は、彼女にとつて、憎しみと不信だけだったような気がするという。夫にあわせようと努力をした。しかし、暴言、虐待、暴力には耐えられなかったらしい。

夫は、人一倍金に執着をするタイプだった。それは妻に生活費を渡さなただけでなく、子供たちにもケチだった。だからいつもギリギリの生活しかできなかった。

別居にまどいたった。二晩続いた夫のぐちのきつかけとお金のことだ。隣家にもぐつていた水道管の修理費用が五万円かかるといふ。

思わぬ出費が気に入らない、文句を言ってきた隣の住人がせなの、が気に入らない、妻をはじめ、せはみんな気に入らない。あとは、「出て行け！顔を見たくない」のお定まりのことば。

あの夜、押し出されたかたちでひとりぐらしをはじめますようになったけれど、食べていくことについては、彼女は、すこしと不安ではなかった。

戦後まもなく夫が失業したころ、自転車にのれないのに、彼女は、朝夕の新聞配達と、旅館の下働きとして働いた。

自分の食べる分くらいは、自分がかせがなくはならなかった。生きている自信になった。彼女はいつも仕事をみつけ働き続けた。

現在の清掃会社は、十才離れた夫が年金ぐらしになったのと、子供が全員就職したのをきっかけに勤め始めた。



(裏面へ)

「65才までは、囑託で働くつもりだし、その後と健康なうちは、年令制限のないところをみつけて働くつもりだ」と言う。

子供たちにたまる気持ちは全くない。もし働けなくなったら養老院に行くつもりで貯金もしている。国民年金には入っているが、年金はあてにならないので、きりつめて貯金をしているのだ。

「もし離婚の届けを出すときは、知らせるから、そのときは勤めを休んで出てい」と言っていた夫から、その後は何の連絡もない。

「おまえがいると、おれは夜とおちおちねむれない」「憎み合っていがみあって、口をきかないような夫婦は別れた方が、互いにストレスがなく、長生きする。たのむから出て行ってくれ。おまえは働いているのだから、ひとりだっくらして、いけるじゃないか」「この家は、おれのものなのだから、おまえが出て行け」

「もしおれが病気になって、みくめるものがいなくなったら、家と土地を売って養老院に行くから」

夫は、そう言ったらしい。たしかに理屈はそうだ。しかし、勝負な言い分だ。自分が出て行くことなど考えとしないのだから。

もちろん、生活費を渡して、なぞ、考えもしないのだから、くれない。離婚しても慰籍料・財産分与など考えとしないだろう。

あやないふたりが、別れてくらすようになつてしばらくは、夫へのうらみで胸のうちがあつくなるようなこととあったが、今は、それほどでもないという。

子供からきいた話らしいが、夫の方と最近はいくねむれるようにだし、高血圧をだいぶよくなり、嫌っていた野菜をためて食べているというのだ。

「お父さんは、お母さんより、十歳上だし、いつまでもがんばってらんで、

今はそこにあって、私が夫婦ふんがしたり行けるといふが、あって、便利やけど、ゆくゆくは、家に戻りたう良か」と娘に言われた。

彼女は、これは私たち夫婦の問題なのだから、私がどうするか決める」と答えたという。

21号のはんご・いん・はんごで紹介した手紙の中に、「私の人生で一番の失敗は結婚で、一番の成功は離婚です」ということばが、ありました。

いくつになつても結婚が失敗だったと思えば、踏みきれないことはないので、

そして、離婚したことが成功だと思えるのです。昨年の忘年会でも、「この言葉に感激した。自分の気持ちを代弁して、どうだったようだった」といった人がいました。

しかし、離婚後の生活を後悔

せが良かった、と思えるには、健康と気力と、経済的自活、そしてなにより、誰にもたよらない精神的自立が必要なるようです。

父親と子供

最近の離婚では、未成年の子供を持つ夫婦は、七割で、そのうちの、また七割は、母親が子供をひきとっています。それで、つい、離婚というと、母と子というふうに考えがちですが、どうして子ども子供を手離さざるをえなかった母親といれば、子供をひきとって育てている父親といるわけです。

子供は、母親がひきとるものだといふのも、考えてみれば、おかしなものです。

今回は、小学校六年の娘をひきとって育ててきた父親の話を集めてみます。

父親の責任は、はたせたが……

私(59歳)が離婚したのは、17年前のことだった。

別れることに問題はなかったが、ひとり娘をどちらがひきとるかで、めめた。いわゆるまじ養子だったので「子供は、おいて、自分ひとりで行ってほしい」と、妻に言われた。しかし、妻にしろ、妻の親にしろ、誰

ひとり、自分の娘を、まかせられる人物はいない。自分しかいないと思つた。父親としての責任を感じた。けでなく、ひとりの、力のない人間を育て、一人前にしなければならぬという、使命感のようなものを持つたのだ。

当時12才だった娘には、「お父さんとお母さんは別れることになった。おまえをいみたいところへいかせる力のあるのは、お父さんだけだ。いやごとついてこい」と話した。

親類と妻も、私に娘をわたしたり

芸者に売ってしまつたのではないかと不安だった。娘自身も、それを感じて、不安になったらしい。そんな父親と思われたことで、私は、なおいと子供をひきとりねばという責任をかんじた。

しかし、かりだをこやし、サラリーマンをやめることになり、以前小学校の教師だった経験をいかし、離島の小学校に赴任することになった。

娘は、小学校卒業目前であつた。離島へつれて行くのもかわいさうだ。そこで寄宿舎のある大学の付属の中学校を日本甲を探してみつけた。富士山のそばの寄宿舎付大付属附属中学に娘を入れた。金さえあれば、なんでもか育てていけると思つた。お手伝いせんをたのみ、手許で育てることと考へたが、その人が病気で休むこともある。他に、みでとらえる知人など、全くいなくなつた。それに、自分の欠点や長所を、娘に伝えるたり、うつつしたくなかつた。また、べつたりといふよにいて、とりこちのよう毎親子関係にならないうにされた。

娘は、地方に住む母親とは、勝手に自由に行き来をこいた。

私はといえは、娘とデートし、その時に何か買ってやる余裕があれば、プレゼントするし、できなければ何も与えない主義だった。

娘が文学に興味を持ち出したころは、二人で文学について話し合った。性についても、フランクに語り合った。私が同棲したときも、娘はお母さんと、おばさまをあわせて、「おかあま」ということばで、父親の同棲相手とも仲良くしてくれた。

やがて娘は、大學生になった。大學生二年のとき、「おまえが大学を出たり、以後、経済的援助はしない。そのかわり、どこに住もうと、どんな職業につこうと、誰と結婚しよう、何といわない。また、私の老後をみてくれる必要はない」と約束した。

二年後、娘は大学を卒業。私の子供への責任はおわり、娘と別れた。

昨年夏、同棲していた女性が死んだ。知らせると、娘は、とんこました。「お父さんが愛している人を失なうて、どうしこるかと思った」

娘とあつのは、七年ぶりのことだった。娘は、高校の教師をしてから結婚。三才の女の子と、一才の男の子の母親になつていた。娘は、ずっと母親と行き来していた。そのうえ、結婚前に母方の姓に変わつてから、今の夫の姓になった。私にとっては、どうでもいいことで、なぜ名前などにこだわるのだろうと、その時思ったが、自分は、金を出しただけの存在のような気が、ふっとした。

娘と今後つぎ合う約束をしない。娘は何といわない。それは、娘の自由だと思つた。

(東京都在住・Aさん)

家計簿公開

離婚して生活が苦しいのは、みんな同じ。限られた収入で、どうやりくり

しているのか、会員のお二人に、家計簿を公開してもらいました。これから再就職をして、なんとかやっいてこうという方々にも、参考になると思います。

☆Kさん(29歳)の場合

東京23区内在住。子供なし。アパートでひとり暮らし。事務員。

110000
40000
150000
69000
12281
5700
9800
50000
50000
5960
157741

◎ 7741円の赤字

取り	家賃
手取	水道
アル	電話
	交通
	外食
	食費
	省費
	帰省

Kさんは、以前、兄と同居していた。兄が家賃を払い、家事をする約束で、六畳四、五畳、バス、トイレ、キッチンのあるアパートを選んだ。兄が結婚してひとり暮らしになった。そのために、家賃を払わなくてはならなくなつた。家賃の安いアパートにうつりたいが、Kさんには、その余裕がない。必死で現状維持している。今年はいくらかると貯金したいという。

手取り11万円には、交通費・保険・年金等の保障はない。週3日、6時半から11時まで食堂で血洗いをして、アルバイト収入をえている。それと、毎月赤字になってしまふ。月1と2万円、実家からもらつてもある。月に2度帰省し、化粧品や下着等、買つてもらう。貯金額はゼロ。なんどか、くらしとはいるものの、将来のことと考へると、頭が痛くなつてしまふという。

☆Mさん(38歳の場合)

広島県下左住。8才の子供ひとり。女子寮の寮母として、子供と住みこみ。

養育費がないのは、夫が上の子と暮らすので、たのて相殺せられてから。

76000	
76.000	
30000	
12000	
7000	
5000	
7000	
3000	
2000	
4000	
6.000	
76.000	

【収入】	
手取り	
【支出】	
食費	
教育費	
娯楽費	
衛生費	
健康費	
衣服費	
交通費	
その他	
貯蓄	

Mさんは、会社の社会保険がある。食費の一部は、会社が負担してくれらる。

で、3万円程度で済む。物価と、東京都内よりは、安いと思われ。住みこみの住居費がいらない。光熱費・新聞・テレビ受信料もいらない。児童扶養手当はうけているが、今は、必要ないので、キエらずにそのまま貯金。将来役立てようと思つてゐる。

寮母以外に会社の雑務(今時から2時、退社と手伝うと、時間外収入が、2万4千円入る。養育費の7千円、これは子供がひとりになったので、友人と作ったため、からだをきたえるため、スイミングスクールに通つてゐる。Mさんと趣味のなりたいとを思つてゐる。

子供の書いた絵を送つて下さい

小学校6年生までのお子さんの絵を募集してゐます。

おうちの様子、食事の風景、家族の顔。なんでも結構、こうです。

絵の裏に、名前と年令を書いて「オオス・ヨリック」あてにお送り下さい。全員に粗品をプレゼントします。

しめ切りは、2月いっぱいです。現在作つてゐる「子供とリンの本」

(仮題・文化出版局から出版予定)の中を、使わせていただく予定です。

『編集人から』

はんと・いん・はんとを作りはじめ、会にかかわるようになってから、一年少し経ちました。去年の暮れに、かせをま右肩が異常にこり、鉛筆もよく持てず休刊を考へました。それに加えて、頭がうまくまわらない、スランプに陥つたのです。全国50名の会員になつたとお喜びしようか、そればかりを考へました。

12月16日に、はんと・いん・はんとの忘年会があり、来年の抱負について、話ししました。私は、「はんと・いん・はんと」を、より充実した紙面にしたいし、日本のP.W.P(アメリカの単親家庭交流の会。全米に20万人の会員をもち、再婚の場でもある)を、めざし、がんばりたいと話しました。

ところが、現在は、スタッフが、円さんと私の二人。がんばりようにも、限度があります。そこで、お願いです。はんと・いん・はんと編集、あるいは、ニコニコ離婚講座の手伝いができる人を求めます。

実際にオオスに来て力とかしこくくれる人を求めたいです。意志のある方は、月2日から金曜の、十時から、六時は、402-734-734まで連絡して下さい。

今年とよろしく。



第39回 ニコニコ離婚講座のお知らせ

〔期日〕1月28日(金)午後1時半～4時

〔会場〕ラ・ミアビル4F

★地下鉄銀座線・千代田線 『表参道』駅下車
A5出口前。

〔受講料〕1000円 〔定員〕80名

★オ40回講座からは、三回連続講座になります。
2, 3, 4月の三回で、離婚のすべてがわかります。
離婚でお悩みの方に、おしえて差しあげて下さい。

“HAND・IN・HANDの会”へのおさそい

★第20回 ほんど・いん・ほんどの会

〔日時〕1月20日(木)PM6:30～8:00

〔場所〕新大寺町ビル1階

サンパティック・サロン

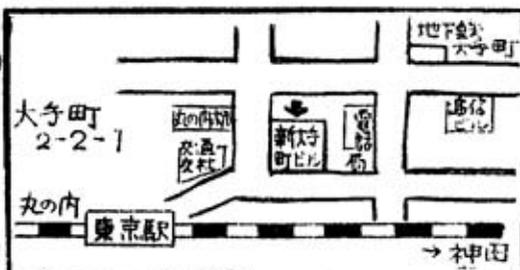
(中央丸くなったところをめぐす)

〔会費〕1000円

〔定員〕12名 (早い者勝ちです)

〔申し込み〕1月18日までにTEL.で、402-7354(月～金AM11:00～PM5:30)

〔内容〕今回のテーマは未定。



大阪 HAND・IN・HANDの会へのおさそい

会合の場所、日時等は、下記おふたりに、おたずね下さい。

★
★

購読方法その他

購読料は、2000円です。現金を、送って下さい。購読料が切れると、お知らせのハガキを出しています。ご協力おねがいします。住所変更のあるときは、お知らせ下さい。購読料が切れても、お申し出がないと、みきづき送付しますので、➔

➔中止を希望の方は、おハガキかお電話(03-402-7354)で、必ず、お知らせ下さい。

⊗今月号は、いつもの倍の紙面。たいへんな思いで作りました。しんどかった! ご意見・ご感想・手紙をお待ちしております。下記住所まで、お送り下さい。☞

▼1983年1月1日

発行人・円 より子
編集人・平沢圭以子

〒150

東京都渋谷区神宮前3-33-2
原宿ハイム202 オオス・ヨリック